

2014. 7.14.

グローバル・メディア論(川崎賢一)

前期集中 (8月5・6・7日)

受講条件・その他の注意

受講に関しては、配布資料がある場合には、事前に目を通しておくこと。授業は蓄積的に行われるのでしっかりと出席をすること

授業の形態：講義

教科書・参考文献

授業全体のテキストはないが、できれば、「グローバル文化学」(小林・熊谷・三浦(編))の第8章を読んでおくこと。なお、参考文献については、授業の中で指示する。

評価方法・評価割合

小論文(レポート)80%、出席(20%)

主題と目標

メディアやマスメディアに関して、発展の歴史的概略を述べ、グローバリゼーションの文脈でどのような現代的展開をとげているのかを講義する。なお、様々な領域(社会学・経済学・国際関係論・法学・情報理論など)での取り上げられ方についても言及する予定である。

授業計画

メディアがグローバルに展開するようになってきた点を15回に分けて概説する。

1. イントロダクション:何が問題か?
2. メディア論をめぐる基礎概念
3. メディア研究の3タイプ
4. 近代社会とポスト近代社会
5. 情報社会・情報革命について
6. メディアの社会的分析(その1)
7. メディアの社会学的分析(その2)
8. メディアの社会学的分析(その3)
9. 日本のマスメディアと世界のメディア状況
10. スマホ・ネットと社会的トランスフォーメーション
11. 情報革命と文化的トランスフォーメーション
12. SNSとビッグデータ

13. 情報学的パースペクティブ(その1): 情報法と情報倫理
14. 情報学的パースペクティブ(その2): ビジネスとスマート化
15. まとめ

学生へのメッセージ

この講義では、主に文化社会学的な観点から分析する。なお、今までのキャリアを生かし、国際関係論・文化経済学・情報通信学などの研究成果を取り入れた学際的内容にするつもりである。また、文化的グローバリゼーションそのものに関心のある学生にもぜひ聞いていただきたい。